



田んぼの虫

虫のまね？人のまね？（その ＜ガムシ＞）

ガムシは、漢字で「^が牙虫」と書きます。しかし成目立つような^{きば}牙は持っていません。幼虫は肉食性でなども捕食するため、するどい顎（^{あご}牙）を持っていまこれが「牙虫」の由来かもしれませんね。

体形はゲンゴロウに似ていますが、ちょっと変わりに属しています。おもしろいのは成虫の呼吸法で、水中から浮き上がるとき、^{おっ}尾端から上がってきて尾して、^{かた}固いはねの下に空気を取り入れますが、ガムいていき、はねの下はもとより、^{はら}腹にじゅうたんののがびっしりと生えていて、このすき間にも空気をしかも、この空気を水中で体内に送るときには、^{こう}孔から逆流しないように、^{りょう}運動量によって^{おく}送り込んこれはちょうど、私たちがアクアラングを使用するのと似ていると思いませんか。これもガムシやゲ察して思いついたのかも知れないと考えてみると、^ちつ知恵に^{おどろ}驚かされてしまいます。

タイコウチやガムシは成虫になると、地上でも生きることができますが、幼虫の時は絶対に水から離れることができません。

江戸時代の本には、「ゲンゴロウやガムシを^{しょう}醤油で煮付けて食べるとおいしい」と書かれていますが^き貴重な虫で数も減っており、^ほ保護してやらなければな

